

2009 SUPER GT 第7戦 富士

◇◆◇表彰台を目前にまさかのハプニングがクルマを襲撃、13位に◇◆◇

■2009年9月12～13日

■静岡県・富士スピードウェイ

■No.24 HIS ADVAN KONDO GT-R 予選：5位 / 決勝：13位

◆9月12日 予選

【厳しい路面コンディションに屈することなく、5番手を獲得】

今シーズンも残すところ3戦。いよいよシリーズ終盤戦へと突入したSUPER GT。

まずは今年2度目となる富士スピードウェイの戦いを迎えた。

この戦いからハンディウエイトの見直しが行われ、これまで全6戦を戦ってきたチームは、

獲得ポイント×1kgのウェイトが義務付けられる。

前回までは獲得ポイント×2kgだったため、ウェイトが半減することになった。

菅生と鈴鹿700kmでは、好走するも決勝中のトラブルに泣き、ポイント獲得のチャンスを喪失しているだけに、

今回はなんとしても上位でレースを終えたいところだ。

土曜の朝を迎えた富士スピードウェイ。

午前9時5分からの公式練習はあいにくの雨模様で始まった。

時折、本降りとなり雨脚が強まるコンディションの中、チームはタイムこそ伸び悩むも、

セッティングを繰り返し、また様々なメニューを消化することで、午後からの予選にむけての準備を進めた。

予選は午後12時50分にスタート。雨は小康状態ではあったが、路面はウェット。

足下には当然レインタイヤが装着されている。

まずはいつものように荒が予選通過基準タイムクリアのため、コースイン。

難なくアタックを終えて、J・P・デ・オリベイラ選手へとスイッチした。

GT500専有の時間帯にアタックを始めたオリベイラ選手。厳しいコンディションではあるが、

シリーズ争いを考慮すると、スーパーラップに進出できる上位8台までになんとしても入らなければならない。

次々にライバルたちがタイムアップを果たす中、やや遅いタイミングでアタックを始めた。

確実にタイムアップしたオリベ이라選手は、残り1分を切って自己ベストタイムを更新、10番手につけた。

さらにラストアタックで再度タイムアップに成功。1分46秒314をマーク、7番手でスーパーラップ進出を決めた。

そのスーパーラップも、依然としてウェットコンディション。

ライバルチームを含め、装着するタイヤ選択に頭を悩ませながらのアタックとなった。

その中で、No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rはインターミディエイトのレインタイヤで出走。

高い集中力を見せたオリベ이라選手は、1分48秒660のタイムをマーク、6番手につけた。

なお、上位8台のアタックで2番手につけたNo.8 NSXは今回のレースを前にエンジンを置換。

S-GT規則によって、10グリッド降格が決まっていることから、

No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rはひとつポジションを上げて、予選5位となった。

◇ドライバーコメント◇

今日のコンディションは、思った以上に気温も路面温度も低すぎました。

この難しいコンディションながら、予選で5番手の位置を獲得できたのは、JP（・デ・オリベ이라）が難しい状況の中でよくガンバってくれたからこそ。感謝しています。

今回からハンディウエイトが（見直され）軽くなったので、朝の走行ではまずクルマのバランスの

確認から始めました。ウェットコンディションでも、さほど悪くはありませんでした。

明日は晴れの天気になるというので、どういう状況になるのか、

また明日朝のフリー走行できちんと調整し、決勝では強いレースをしたいです。

今回は、勝負どころの一戦になるので、全力を出し切れるように頑張ります。

◇監督コメント◇

スーパーラップでは、JP（・デ・オリベ이라）がよく頑張ってくれました。

とくに、スーパーラップに残るための予選1回目のアタックがすごかったと思います。

最後のスーパーラップでは、タイヤ選択を含み、チームとしての反省点もありました。

どのタイヤを装着するか、最後まで悩みましたね。
とはいえ、明日はこの位置から面白いレースができるでしょう。
ウチのチームにとってはタイトルを争う意味でも、ターニングポイントになるので、
もちろん勝ちを狙っていきます。とにかく頑張りますよ。

◆9月13日 決勝

【表彰台を追うも、まさかのハプニング。悔しい結果に】

予選終了後、夜になって富士スピードウェイは激しい雨に見舞われたが、その日のうちに上がり、
日曜は曇天ながら晴の朝を迎えた。
午前8時30分からのフリー走行ではウェット宣言が出され、レインタイヤ装着も可能だったが、
No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rではスリックタイヤを履き、セッティングの確認を行った。
セッション中は、セットの調整をはじめとするレースに向けての準備作業を順調に進めた。

迎えた決勝レース。午後2時に66周にわたる戦いが始まり、
スタートドライバーのオリベyra選手は5番手からひとつポジションを上げ、4位でオープニングラップを終了。
そのまま勢いにのって、前のNo.1 GT-Rと激しい攻防戦を数周繰り広げ、ついに6周目に逆転！
これと同じタイミングでトップの車両がペナルティを受けてピットインしたため、No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rは2番手の好位置で周回を重ねていく。
なお、20周目には後方のNo.8 NSXとの接近戦の末に逆転を許したが、そのまま3番手で力走を見せた。

No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rがルーティンワークのピットインを行ったのは、33周終了時。
28.5秒とライバルたちよりも早いタイムで給油、タイヤ交換、ドライバー交代を完了。
コースインした荒は、レース終盤での追い上げを想定し、まずはタイヤ温存の走りに徹した。

ライバル達のルーティンワークも終了。レースは折り返しを過ぎ、この時点でのポジションは4番手。

前をいくNo.1 GT-Rとの差は約2.5秒と、十分に逆転可能の範囲であることを確信した荒は、
徐々にペースを上げて巻き返しを図ろうとしていた。だがそこに思わぬハプニングが襲い掛かる。

46周目のBコーナー。前を行くGT300のポルシェのドアが外れ、その直後にいたNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rのボンネットを直撃！
さらに、車両のキルスイッチのワイヤーを引っ掛けてしまった。
あり得ないようなハプニングに巻き込まれ、さらに電源が落ちてしまったクルマはもはやコントロール不可能。
荒はなんとか安全を確保できる場所へとクルマを止め、状況確認を始めた。
一度、クルマを降りた荒は、ハプニングでキルスイッチが入ってしまったことを理解、
再びクルマに乗り込んで、自ら修復作業を開始する。
そして、誰もができるようなものでないトラブルシューティングを見事にこなし、チームスタッフが待つピットへとクルマを走らせた。

ピットへと戻る間、無線で現状をスタッフに伝えた荒。冷静かつ機転の利いた判断と作業によって、
No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rは再び戦闘への復帰を果たすことに成功する。
惜しむらくは、トップから2周遅れでになってしまったこと。
だがしかし、荒はその後も集中力を切らすことなく、時にはしかと速さをアピール。
上位陣に引けを取らない力走を披露し、13位でチェッカーフラッグをくぐった。

◇ドライバーコメント◇

JP（・デ・オリベイラ）から代わり、しばらくはタイヤを温存するペースで走ることになりました。
プッシュすることなく周回を重ねていたのですが、自然に上位との差が詰まってきたので、
終盤は楽しい展開になるな、と期待しながら走っていました。
しかしながら、ここでとんでもないトラブルに巻き込まれることになりました。
Bコーナーでのブレーキ直前、前方にいたGT300のポルシェのドアが外れ、僕の目の前に飛んできました。
スピードを考えれば、どうすることもできない状況でした。
クルマの電気が落ちて走れなくなったので、安全が確保できる場所にクルマを停めて状況を確認しました。
キルスイッチが入ったことがわかったので、自分で修復しました。メカに詳しくて

よかったと思います。

これでピットに戻りながら、無線で状況を伝え、再びレースに復帰することができました。

しかしあんなに、今日は速さをみなさんにお見せすることができるレースだっただけに、

こんなことになって本当に悔しいです。ポイントも獲れずに終わったので、残り2戦は優勝あるのみ。

とにかく勝って結果を残したいと思います。

◇監督コメント◇

驚くべきハプニングでした。モニターではクルマが停まったところしか映っていなかったのも、

最初はどこかでクラッシュして停まっているのかと思いました。

その内容を聞くと、アンラッキーとしか言いようがありません。

今日のレースでは、後半に粘りの走りを見せて、3、4位といわず、もっと上の順位を考えていました。

それだけに本当に残念。落ち込むスタッフには、残り2レースあるので、今日が最終戦でなくて良かったと思うように、と声をかけました。正直、チャンピオン争いは厳しくなりました。

しかし、みんなには残り2レースを勝つつもりでいけ！とゲキを飛ばしています。

確かに悔しさも相当大きいですが、これだけはどうしようもない。

残りのレースでKONDO RACINGの強さをアピールするだけです。